

41 田うない地藏 (手負地藏)

伝承地：南大通り1-4-27

話者：26

参考書籍：1・7・8・10・17・19・21



(応願寺)

宇都宮の城下から2里ほど南へ行つた御田村（現、市内上御田町）に深く仏教を信仰していた夫婦がありました。ある夜、一人の行脚の僧が一夜の宿を求めたので、快く泊め、世話をしてあげました。次の日の朝、手厚いもてなしに深く感謝した僧は、御礼のしるしに地藏尊を百姓夫婦に与えて立ち去りました。夫婦は大いに喜んで、朝に夕にこの地藏尊をおがみました。

そのことがあってから、半年ほど過ぎたある日のこと、夫が田に出て働いていると、14、5歳位の子もがどこからともなく現われて、手伝ってあげるといので、手伝ってもらうと、5日はたっぷりかかる仕事をわずか1時間程で終わってしまいました。しかし、御礼のあいさつをしようとした時には、姿が消えてしまっていました。

夕方、家に帰り仏間を開いて地藏尊をおがむと、頭から胸のあたりまで汗が流れ、足には泥がついていたので、昼の子もは、お地藏様かと感謝し、その泥足をきれいに洗い浄め、この後、夫婦はともに出家して、いよいよ熱心に地藏尊を信仰したということです。この後「田うない地藏」と呼ばれて多くの人々の信仰を集めました。

その後、夫の僧が他の村へ行って泊ったおり、夢の中に地藏尊が現われて「お前の家に盗賊が入り、いろいろなものを盗み去ろうとしたので、賊と戦って捕えようとしたが、賊に傷つけられた。」と言うので、驚いて帰ってみると、家の中は取り散らかされており、地藏尊の姿が見えないので、急いで外にさがしに出ました。すると、たんぼの中に倒れていました。そして、引き上げてよく見ると、顔と肩の辺りに傷を受けており、賊と地藏尊との格闘の跡がありありとわかりました。それからは、「手負地藏」とよばれ、いよいよ多くの人々の信仰が集まりました。

その後、地藏尊は夢で「宇都宮の大願寺の如来と同じ場所に住みたい。」と言われたので、大願寺(応願寺)に納め、応願寺では「身代り地藏」とよび御本尊の脇に安置した。

